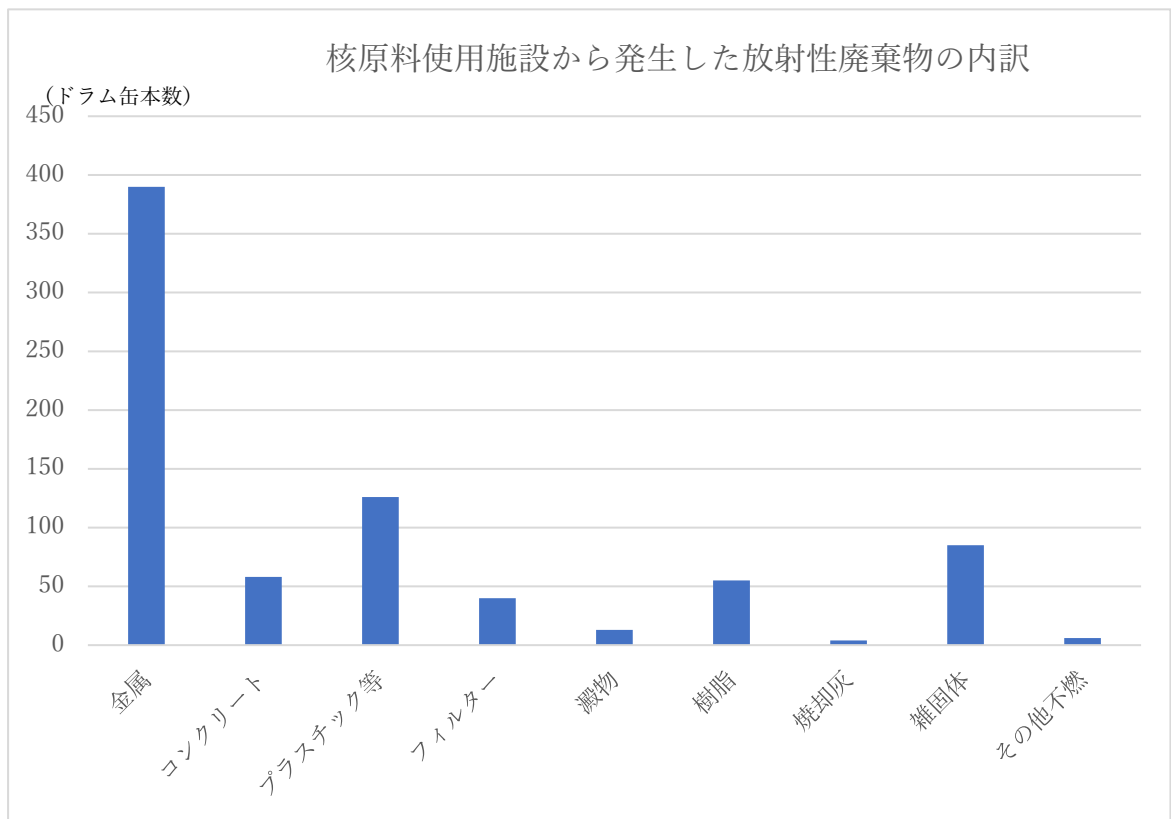


人形峠環境技術センター核原料物質の使用に係る届出施設で発生した放射性廃棄物について

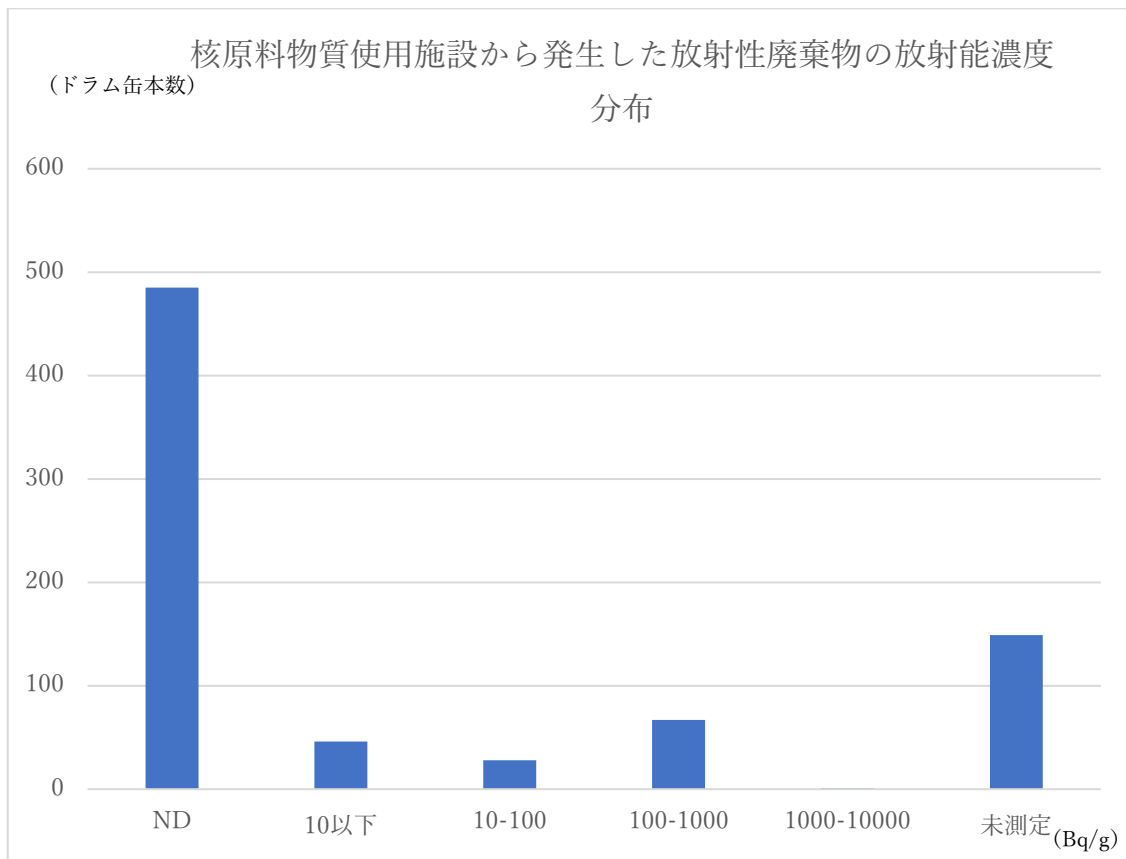
令和5年7月25日
日本原子力研究開発機構

人形峠環境技術センターの核原料物質の使用に係る届出施設は、開発試験棟及び解体物管理施設（旧製錬施設）の2施設となります。なお、解体物管理施設では核原料物質であるウラン鉱石を密封容器に入れた状態でウラン線源として模擬コンテナ内に配置して非破壊試験に使用しているため、この試験で放射性廃棄物は発生しません。

開発試験棟から発生した放射性廃棄物の保管状況（200ℓドラム缶約800本）は以下の通りです。



核原料物質使用施設から発生した放射性廃棄物の汚染源は、天然ウラン及び子孫核種で、ウラン量のドラム缶ごとの放射能濃度の測定結果から作成した分布は以下の通りです。



* 放射能濃度はキャンベラ製 Q2 測定装置 (20gU 以上では±10%)により非破壊で測定したウラン量に天然ウランの比放射能 2.4×10^4 を乗じ、それぞれのドラム缶内の収納物重量で除して求めています。

以上